

春作ジャガイモにおけるニジュウホシテントウの薬剤防除時期

井 上 平

(長崎県総合農林試験場)

INOUE, H.

Effect of insecticide applied at various times on the 28 spotted lady beetle, *Epilachna vigintioctopunctata* FABRICIUS, in spring cropping potato.

春作ジャガイモのニジュウヤホシテントウを防除するには、発生の検出が容易になる幼虫の老熟に伴う食害葉発生の増大期すなわち5月下旬頃に適当な殺虫剤を散布すればよい筈であり、事実そのとおりであることを確かめることができた。また一方、アブラムシ類が媒介する葉巻病の伝染防止のための4月下旬～5月上旬の3回の殺虫剤散布によってもよく防除することができた。これらの調査結果をのべ、ニジュウヤホシテントウの防除時期を考察したい。

方 法

幼虫の老熟に伴う食害葉発生の増大期における防除試験は、第1表中に示したとおりの小面積試験区で実施した。

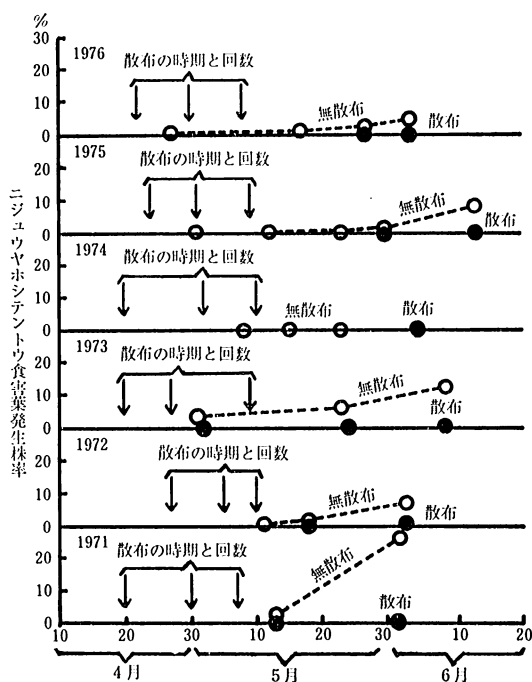
葉巻病の伝染防止のための殺虫剤散布は、2～3区合計で90～150㎡の面積に対して行った。この場合、第1図に示した食害葉の発生株率は全面積全株についての調査から求めた。

結果と考察

幼虫の老熟に伴う食害葉発生の増大期における殺虫剤1回散布の効果は、第1表のとおりで、いずれの年ともに、ほとんどの幼虫をよく防除することができた。葉巻病防除のための殺虫剤3回散布の効果は、第1図のとおりで、いずれの年ともに食害葉の発生を完全に防止し得た。

春秋2期作用ジャガイモ品種のうちには、葉巻病に対する殺虫剤散布を必要としないものもある。このような

品種では、ヨトウガに対する5月中旬頃の殺虫剤1回散布によって防除し得る可能性が強く、検討を要する。



第1図

春作ジャガイモに対する葉巻病防除のためのアセフェート水和剤1,500倍液3回散布がニジュウヤホシテントウに及ぼす影響

第1表 春作ジャガイモの老熟期ニジュウヤホシテントウ幼虫に対する殺虫剤1回散布の効果

試 験 年 次	散布薬剤の種類と10 a 当たり散布量	散布月日	散布面積	散 布 前 散 布 後 散 布 後 2～4 日 後の生存虫率	散 布 前 散 布 後 2～4 日 後の生存虫率
1971	アセフェート水和剤1,000倍液170ℓ	5月31日	4.6㎡	403	8.9%
	無 散 布	—	4.6㎡	798	7.5%
1972	アセフェート水和剤1,000倍液200ℓ	6月1日	6.6㎡	163	0%
	無 散 布	—	6.6㎡	249	90.8%
1973	DDVP 乳剤1,000倍液165ℓ	6月7日	4.5㎡	867	9.8%
	無 散 布	—	4.5㎡	793	90.9%
1974	アセフェート水和剤1,000倍液265ℓ	6月1日	9.0㎡	456	0.9%
	無 散 布	—	9.0㎡	399	125.3%